

## 女性特有のがん、子宮頸がんの県内動向と HPV ワクチン接種勧奨の再開について

女性特有のがんである、子宮頸がんを防ぐ HPV (ヒトパピローマウイルス) ワクチンの積極的な接種勧奨が9年ぶりに、令和4年4月から再開されます。本資料では、2018年診断症例を中心に、子宮頸がんの県内動向を報告します。

### 子宮頸がんとは？

子宮頸がんは、子宮の入り口(頸部)にできるがんです。子宮頸がんのリスク要因の一つに、HPV感染があります。このウイルスは主に性交渉で感染し、女性の多くが一生に一度は感染するといわれています。感染しても多くは免疫機能により自然に排除されますが、稀に感染した後、数年から数十年かけて、がんの前段階である「異形成」、子宮頸部の粘膜表面にとどまっている「上皮内がん」、粘膜より深く広がる「浸潤がん」へ進行します。

がんの初期症状は、ほとんどありません。

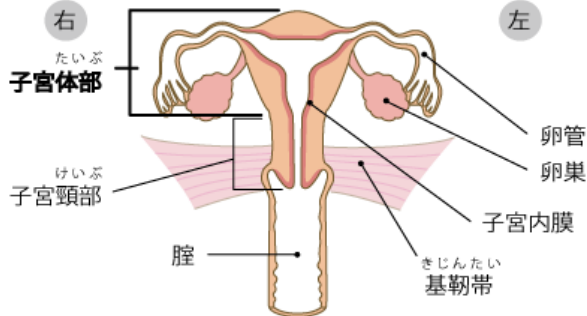


図1. 子宮の構造※1

### 子宮頸がんの罹患状況

2018年には、本県女性の延べ4,427件(上皮内がんを含む)が、新たになんと診断され、その内、子宮頸がんは486件(11.0%)でした。特に、15-39歳(AYA世代※2)におけるがん種では、子宮頸がんは198件と最多でした(図2)。

全国と比較した子宮頸がんの年齢階級別罹患率をみると、本県の値は、30-34歳をピークとし、他の年齢層でも全国値を上回っていました(図3)。

※1 子宮の構造

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

※2 AYA 世代：

Adolescent and Young Adult(思春期・若年成人)

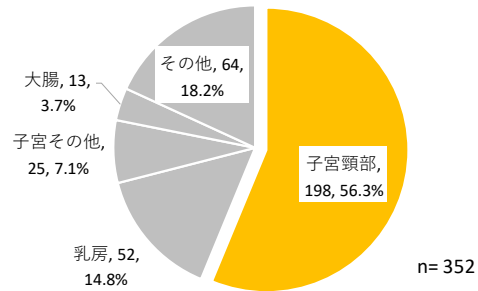


図2. 2018年における、AYA世代女性のがん罹患数(診断件数)及び割合(%) (上皮内がんを含む)

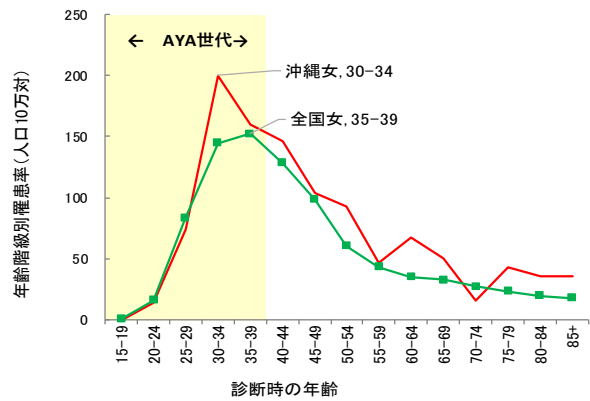


図3. 2018年における、子宮頸がん年齢階級別罹患率の全国比較 (上皮内がんを含む)

### 子宮頸がんの死亡状況

2018年に、本県女性の1,333人が、がんで死亡し、その内、子宮頸がんは52人(3.9%)でした。

全国と比較した子宮頸がんの年齢階級別死亡率をみると、本県の値は、80-84歳が最も高く、他の年齢層でも全国値を上回っていました(図4)。

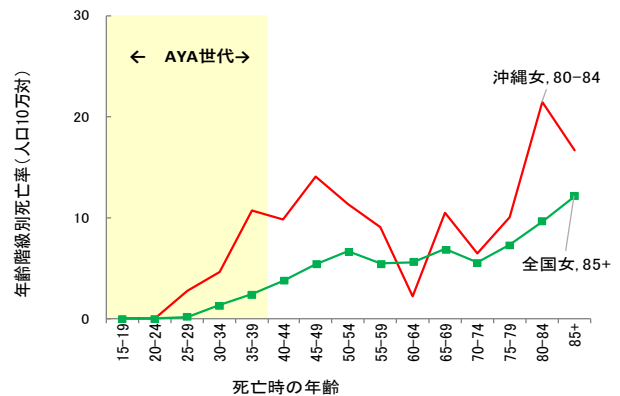


図4. 2018年における、子宮頸がん年齢階級別死亡率の全国比較

年齢調整罹患率および年齢調整死亡率の年次推移

本県における子宮がん、子宮頸がんの年齢調整罹患率（上皮内がんを含む）の年次推移では、いずれも2013年以降、増加傾向がみられました。また、子宮がんの年齢調整死亡率の年次推移では、2009年以降、増加傾向がみられました（図5）。

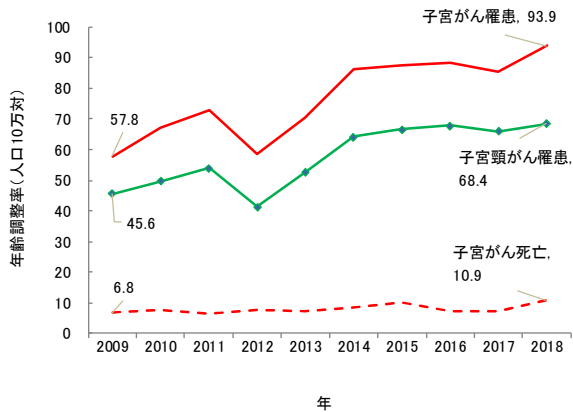


図5. 2009-2018年沖縄県における、子宮がん及び子宮頸がん年齢調整罹患率（上皮内がんを含む）、子宮がん年齢調整死亡率の年次推移※3

※図2～図5に係るデータ

出典：令和3年度沖縄県がん登録事業報告（平成30年(2018年)の罹患集計）

子宮頸がん検診

子宮頸がん検診は、20歳以上の女性が対象であり、2年に1回の間隔で受診し、がんを早期発見、適切な治療につなげることで、死亡率減少の効果が証明されています。

子宮頸がんは、早期であれば、予後は良く、部分的な摘出手術によって子宮温存も可能ですが、進行したがんである場合、難しい治療や将来の妊娠・出産に影響が出る可能性があります。

HPVワクチン接種勧奨の再開、キャッチアップ接種について

HPVワクチンは、平成25年4月に定期接種となりましたが、持続的な疼痛等の副反応がワクチン接種後にみられたことから、同年6月以降、国は積極的勧奨の差し控えを勧告しました。その後、国と専門家が検討した結果、安全性について特段の懸念が認められず、ワクチン接種による有効性が副反応によるリスクを上回ると認められたため、令和3年11月に差し控えを終了しました。令和4年4月から積極的勧奨を再開し、小学6年から高校1年相当の女子を対象にした定期接種に加え、令和4年度から6年度までの3年間で、接種機会を逃した年齢層を対象とした対応（キャッチアップ接種）を実施します（図6）。詳細はお住いの市町村予防接種担当課へお問い合わせください。

HPV感染を防ぐワクチン接種（一次予防）と、がん検診（二次予防）を組み合わせることで、子宮頸がん死亡率減少の効果が、今後期待されます。

【企画管理班】

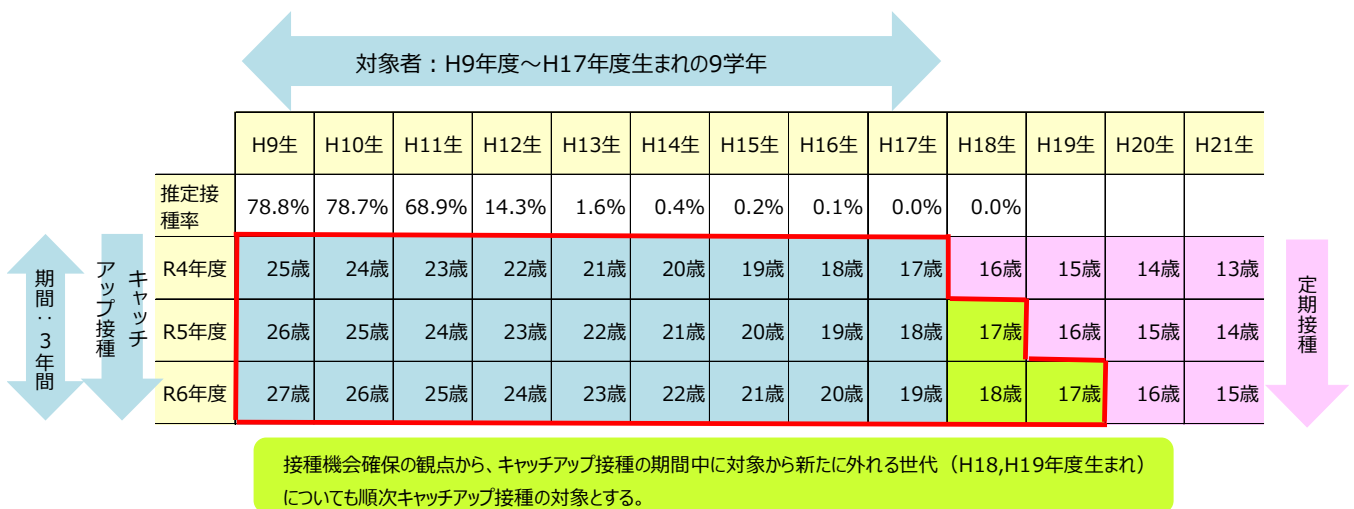


図6. HPVワクチンのキャッチアップ接種の対象者、期間の取扱い（厚生労働省 令和4年1月27日第47回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会 資料1より一部抜粋）

## 参考文献

1) 子宮頸がん受診から診断、治療、経過観察への流れ 患者さんご家族の明日のために（国立がん研究センターganjoho.jp）

[https://ganjoho.jp/public/qa\\_links/brochure/pdf/141.pdf](https://ganjoho.jp/public/qa_links/brochure/pdf/141.pdf)

2) 厚生労働省 健発 1126 第 1 号 2021 年 11 月 26 日 「ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の今後の対応について」(健康局長通知),

<https://www.mhlw.go.jp/content/000875155.pdf>

3)厚生労働省 2021 年 12 月 28 日 「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会におけるキャッチアップ接種に関する議論について」(事務連絡)

<https://www.mhlw.go.jp/content/000875153.pdf>

4)厚生労働省 2022 年 1 月 27 日第 47 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会資料 1

<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000890273.pdf>

5)国立がん研究センターの正しいがん検診（小学館クリエイティブ）